

【オリコンサルら バス利用 安心と利便性向上 厚木でサービス試行】

バス利用 安心と利便性向上

オリコンサルら 厚木でサービス試行

オリエンタルコンサルタンツは、グループ会社のリサーチアンドソリューション（福岡市、美濃部直樹社長）とバス利用の安心・安全や利便性の向上と運行管理の効率化につながる「バスなか見守りサービス」と「バス位置情報提供サービス」を開発した。8日から運行開始した神奈川県厚木市の地域コミュニティ交通「ココモ」に「バス位置情報提供サービス」を試行導入したほか、「バスなか見守りサービス」も利用状況などの把握を目的に運用開始している。

バス位置情報提供サービスは、簡易な通信機器をバスに設置することでバス利用者やその家族などがバス走行位置のリアルタイム情報をスマートフォンやパソコンで閲覧でき

きるサービス。バス停での待ち時間短縮やバスでの帰宅時間が想定できるなど、利用者の利便性向上が期待できるほか、バスの運行管理もしやすくなるなどのメリットがある。

バスなか見守りサービスは、利用者がICカードをバス内の専用機器にかざすことにより、事前に登録された利用者の家族やバス運行管理者などに対して乗車・降車の通知を送信。バス運転手がボタン一つで管理者に緊急発報が可能な仕組みも備えることでトラブル発生時の事業者の迅速な対応を支援する。高齢者や子どもがバス利用時の安心感が高まるほか、バス運行管理者が乗降場所別の利用人数を時刻別に把握できることで



バス運行ルートやバス停配置、運行ダイヤなどの最適化を検討することができる。

岡サービスが試行導入される厚木市の地域コミュニティ交通ココモは、市が2018年度に実証運行し、地域に定着した乗り物とするため、23年度までの予定で継続運行を決めたもので、鷲尾ルートは毎週月、金曜日、まつかけ台・みはる野ルートは毎週火、木曜日にそれぞれ1日4便運行する。運行車両は8人乗りのジャンボタクシーとなる。写真。